

はり盗る方が悪いのだ。
けれどこれからは自分でも
よく注意したい。

新コーナー 突撃インタビュー

第1回 吹奏楽部

何なんだ、この派手な見出しは……と思った読者諸君。実は新コーナーなのである。読者は、大泉にいくつの部

受賞しました。」
「二年連続銀賞、素晴らしい。文化祭での迫力ある演奏もうなずけますね。」

も明るくて楽しい人達ばかりです。本当ですよ。」
「学年の隔たりなく、仲が

他校訪問 東京外国語大学

中国語劇が見ることができなかったが、大変素晴らしい。セリフはみんな中国語である。記者は中国語がわからないので、その発音が上手か下手かをいうことはできないが、同じ日本人が異国の言葉



国際的な視野で研究されているので、物事を今までと違った面からとらえることができる。また、英語話者としての日本人と、部屋の中には日本人しかいないのに、皆が英語で話していた。外大ではどの学科も、私達が中学で習った英語ぐらいの事は半年かそこらで習うと聞く。私事だが、記者は英語を四年間も習ってきた。殆ど英語を話せないのに、気づいて情けなくなった。ともあれ外語祭。とても楽しく有意義な一日を過ごした。

「何なんだ、この派手な見出しは……と思った読者諸君。実は新コーナーなのである。読者は、大泉にいくつの部

「でも、文化祭前はそれぞれがクラスとの両立に忙しくてなかなか練習できなかった。朝練や昼練で補おうと頑張りましたが、とても悲惨な演奏になってしまいました。反省反省の文化祭でした。」

「来年3月22日に杉並公会堂で、定期演奏会を行います。今回で第十回という節目を迎え、部員一同意気込んでいます。音楽はあまり好きじゃない、という方でも楽しんでいただけるでしょう。どうぞ皆さん、聞きに来て下さい。」

去る十一月十二日、記者は北区に所在する「東京外国語大学」の学園祭を訪れた。正門を入ってまっ先に目に付いたのが、広場に所狭しと立ち並んだテントだった。そしてその殆どが、食べ物に関する模擬店だった。また、野

と、感心とも尊敬ともつかない気持ちを持った。もちろん演技力もなかなかのものだし、話の筋も中国の歴史・毛沢東の頃に密着して勉強に



展示では、比較哲学研究、東洋思想研究、ソ連東欧研究などがあつた。内容がよく理解できないものもあったが読んでも見ると結構おもしろい。展示では、比較哲学研究、東洋思想研究、ソ連東欧研究などがあつた。内容がよく理解できないものもあったが読んでも見ると結構おもしろい。

青山学院高等学校

青山学院高校は、JR渋谷駅から徒歩八分のところにある。大泉とは違ってぎやかな場所にあるにもかかわらず、広大な敷地と、歴史を感じさせる建物が、閑静を引き出しているように思える。

一般公開は午後一時からであつたが、記者達の訪れた一時五分前には、既に一五〇メートルほどの長い列が出来ていて、さすがに青山学院は名の知られている学校だと改めて感心させられたのである。

青山学院高校は、JR渋谷駅から徒歩八分のところにある。大泉とは違ってぎやかな場所にあるにもかかわらず、広大な敷地と、歴史を感じさせる建物が、閑静を引き出しているように思える。

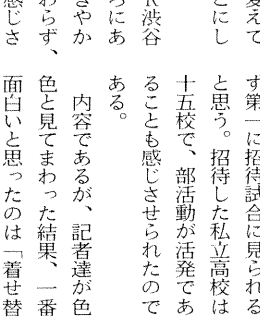
「何なんだ、この派手な見出しは……と思った読者諸君。実は新コーナーなのである。読者は、大泉にいくつの部

「でも、文化祭前はそれぞれがクラスとの両立に忙しくてなかなか練習できなかった。朝練や昼練で補おうと頑張りましたが、とても悲惨な演奏になってしまいました。反省反省の文化祭でした。」

「来年3月22日に杉並公会堂で、定期演奏会を行います。今回で第十回という節目を迎え、部員一同意気込んでいます。音楽はあまり好きじゃない、という方でも楽しんでいただけるでしょう。どうぞ皆さん、聞きに来て下さい。」

去る十一月十二日、記者は北区に所在する「東京外国語大学」の学園祭を訪れた。正門を入ってまっ先に目に付いたのが、広場に所狭しと立ち並んだテントだった。そしてその殆どが、食べ物に関する模擬店だった。また、野

と、感心とも尊敬ともつかない気持ちを持った。もちろん演技力もなかなかのものだし、話の筋も中国の歴史・毛沢東の頃に密着して勉強に



展示では、比較哲学研究、東洋思想研究、ソ連東欧研究などがあつた。内容がよく理解できないものもあったが読んでも見ると結構おもしろい。展示では、比較哲学研究、東洋思想研究、ソ連東欧研究などがあつた。内容がよく理解できないものもあったが読んでも見ると結構おもしろい。

第二次世界大戦中、新潟の方田舎の三キロメートルの砂利道を裸足で、当時の国民学校（小学校）へ通った。大本営発表の赫々たる戦果のニュースに踊り、硫黄島玉砕と言われても、所詮は、戦争ごっこだったと思う。

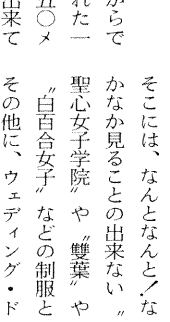
「戦争ごっこ」でなくなったのは、戦後のこと。東京大空襲で焼け出され、夫に戦死された叔母が子供二人と疎開してくる。敵機の機銃掃射に片足をとられた叔父が復讐して。親戚・知人が食糧を求めて訪ねて来る。

はじめて東京へ出てきたのは戦後数年たった正月、中三のときだった。空襲の焼跡のバラックに仮住まいの叔母の家族や、

最後、副部長さんの語ってくれた今年一年です。「年末を迎えるにあたり、今年の我が部を振り返ってみると、まず4月。新入部員をむかえていろいろなことがあつた。相も変わらず大人気のフルート、サクソ。例年になく不人気のクラリネット。結局23名を迎えてスタート。5

「いわさきちひろ」その名を聞いたことのないという読者はまずいないであろう。そして、彼女の絵を見たことがないという読者もまたいないではないか。しかし、「いわさきちひろ」が、大泉高校から自転車で十分とからない上井草にあるということを聞いたのは初めて、という人は多いであろう。

静かな住宅街の中にあるこの美術館。外から見ると質素だが、館内は意外と広く、一歩足を踏み入れれば、そこはもう絵本の世界、愛のあふれた世界なのだ。



読者や記者が、ちひろの描くこともくらの年齢だった時には、やはりこんなにかわいくて、大きな瞳をくりくりさせて、輝かせて、ハッパツとしていたであろう。ちひろの描いた世界は、誰も知らないところへ通ってしまつた時期である。しかし、一番愛らしい時期であつたのだ。ちひろは、その美しい瞬間をみ

青春雑感

江平清



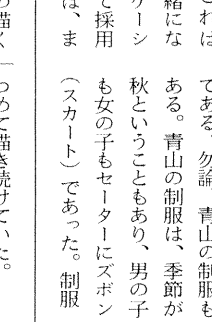
授業の半分は園芸、畜産などの専門科目。実習では不器用でろいので、いつも班の仲間にも助けられていた。妙高高原赤倉に合宿して、たばこ畑の開墾をしているとき、ホテルから荷車で下肥を運び戻す（だったと思う）の寮の前を通り、鼻をつままれた屈辱

怖かった。いま、農業の指導者として活躍中。僕は会計、毎月の集金から支出まで全て生徒の手でやった。領収印に使ったはんこをいまでも使っている。新聞の編集はあきらめた。

「来年3月22日に杉並公会堂で、定期演奏会を行います。今回で第十回という節目を迎え、部員一同意気込んでいます。音楽はあまり好きじゃない、という方でも楽しんでいただけるでしょう。どうぞ皆さん、聞きに来て下さい。」

去る十一月十二日、記者は北区に所在する「東京外国語大学」の学園祭を訪れた。正門を入ってまっ先に目に付いたのが、広場に所狭しと立ち並んだテントだった。そしてその殆どが、食べ物に関する模擬店だった。また、野

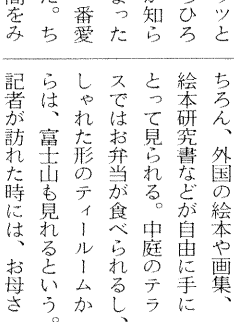
と、感心とも尊敬ともつかない気持ちを持った。もちろん演技力もなかなかのものだし、話の筋も中国の歴史・毛沢東の頃に密着して勉強に



展示では、比較哲学研究、東洋思想研究、ソ連東欧研究などがあつた。内容がよく理解できないものもあったが読んでも見ると結構おもしろい。展示では、比較哲学研究、東洋思想研究、ソ連東欧研究などがあつた。内容がよく理解できないものもあったが読んでも見ると結構おもしろい。



中国語劇が見ることができなかったが、大変素晴らしい。セリフはみんな中国語である。記者は中国語がわからないので、その発音が上手か下手かをいうことはできないが、同じ日本人が異国の言葉



国際的な視野で研究されているので、物事を今までと違った面からとらえることができる。また、英語話者としての日本人と、部屋の中には日本人しかいないのに、皆が英語で話していた。外大ではどの学科も、私達が中学で習った英語ぐらいの事は半年かそこらで習うと聞く。私事だが、記者は英語を四年間も習ってきた。殆ど英語を話せないのに、気づいて情けなくなった。ともあれ外語祭。とても楽しく有意義な一日を過ごした。

